

日本語とウズベク語の謝罪表現・謝罪ストラテジーの異文化間比較 ——両国でのフィールドワークを通して

Tinchurina Damira 言語学分野・専門 博士前期課程2年

研究の背景 人間は日常生活の中で様々な発話行為を行っている。例えば「感謝、依頼、勧誘、命令」等の機能を担う表現である。言語学や社会言語学の観点からみると、謝罪や謝罪を伴う言語行動も頻繁に行われている。本研究では日本語とウズベク語における謝罪の発話行為、両言語話者が使用する謝罪ストラテジーについて対照研究を行う。

本研究の目的 本論文では日本人とウズベク人が謝罪する際に用いられるストラテジーの対照分析を行う。本研究の被調査者は日本語母語話者、ウズベク語母語話者、ウズベク人日本語学習者という三つのグループからなる。具体的には各グループの話者が最もよく扱っている謝罪ストラテジーと各謝罪場面で各グループが使用する謝罪ストラテジーにはどのような相違があるのかを明らかにすることを目的とする。

本研究の調査方法と調査場面 本研究では、日本語母語話者 (JN) 92人、ウズベク語母語話者 (UN) の大学生と大学院生40人、ウズベク人日本語学習者 (JFL) の大学生と大学院生40人、合計172人を対象に、DCTの自由記述のアンケート調査を通して、データを収集した。本研究の場面設定に関しては、日本人とウズベク人の日常生活の中で謝罪行動が想定されやすい12の場面を設定した。本研究ではDCTのアンケート調査の各場面对して被調査者に謝罪をすかどうかの選択肢に加えて、被調査者には「謝らない」選択肢も与え、その理由について書いてもらうこととした。DCTのアンケート調査は大学の講義中に配布し、集団で実施した。これまでの先行研究では、謝罪表現・ストラテジー等は話者同士の年齢・性別・社会地位等の差異等によって相違が生じることが指摘された。従って、本研究でもDCTを行う前に、被調査者に研究の《Background Characteristics》を記入してもらった。《Background Characteristics》は年齢、性別、学歴等の情報を含んでいる。

分析結果 3つのグループの被調査者達の、場面1から場面12における発話を分析したところ、単独ストラテジーよりも組み合わせのストラテジーの使用傾向が高かった。具体的にいえば、JNグループでは、合計86種類の謝罪ストラテジー、1104の謝罪発話数が見られた。JFLグループでは、64種類の謝罪ストラテジー、480回の謝罪の発話数が見られた。UNグループでは、53種類の謝罪ストラテジー、480回の謝罪発話数が見られた。

本研究で、被調査者に使用された謝罪ストラテジーは、相手との親疎関係つまり(1)教授、(2)見知らぬ人、(3)友達等の要素によって異なることが明らかになった。また、今回の調査では、3つのグループ間で使用されたストラテジーの種類は多様だが、「謝罪の定型表現」が単独や組み合わせの形等で多く用いられるという類似性が見られた。全場面合わせて、JNグループで217回、JFLで69回、UNで56回使用されたことが明らかになった。そして、各場面においてJN、JFL、UNグループにおける男女による謝罪表現の違いについて分析したところ、JFLとUNグループでは男女による差がなく、JNグループのみで謝罪表現の使用法に男女差が見られた。全場面に合わせてUNグループは他のグループと違い、謝罪する際に最初に犯した過失の理由を説明して、過失が故意ではない気持ちや意向をはっきり伝えること、或いは謝罪しない傾向が見られた。最後に、今回の調査では、定められた謝罪は同じ場面において決まった形式のストラテジーではなく、多様なストラテジーを組み合わせで使用されることが明白になった。両言語のストラテジーの多様性は謝罪発話行為における言語行動のスタイルが異なることを意味すると推測できる。